

第 21 回原子力委員会臨時会議議事録（案）

1. 日 時 1999 年 4 月 2 日（金） 10:30～12:05
2. 場 所 委員会会議室
3. 出席者 藤家委員長代理、依田委員、遠藤委員、木元委員
 （事務局等） 科学技術庁
 原子力局
 青江局長
 今村審議官
 政策課 坂田課長 中川、大島
 原子力調査室 森本室長、板倉、村上、池電、鈴木、岡本
 動力炉開発課 森口課長、増子
 核燃料サイクル開発機構
 都甲理事長、中神副理事長、相澤理事
 経営企画本部事業計画部 上原部長、大後次長、天田
 長尾東京事務所長
 吉鋪専門委員
4. 議 題
 (1) 平成 11 年度原子力研究、開発及び利用に関する計画について
 (2) 核燃料サイクル開発機構中長期事業計画について
 (3) 原子力政策円卓会議モデレーターからの提言を受けて
 (4) その他
5. 配布資料
 資料 1 平成 11 年度原子力研究、開発及び利用に関する計画（案）
 資料 2-1 核燃料サイクル開発機構の「中長期事業計画」策定の経緯
 資料 2-2 中長期事業計画の概要
 資料 2-3 中長期事業計画
 資料 2-4 サイクル機構の将来計画
 資料 3 今後の原子力政策の展開に当たって（案）
 資料 4-1 第 18 回原子力委員会定例会議議事録（案）
 資料 4-2 第 19 回原子力委員会定例会議議事録（案）
 資料 4-3 第 20 回原子力委員会臨時会議議事録（案）

6. 審議事項

(1) 平成11年度原子力研究、開発及び利用に関する計画について

標記の件について、政策課より資料1に基づき説明があった。これに対し、

- ・冒頭の全体像の記述は、原子力への取り組みについて21世紀に向けての時代認識と原子力のもつポテンシャルが示されており、よく検討されている。具体的な施策の分類について、例えば農水省や厚生省で行われている基礎研究などの具体的項目についてどのように分類するのか、今後行革の方向性を見ながら検討していかなければならない。また、安全規制に係わる審査・検査の充実強化と、原子力行政の規制緩和・合理化や事業者の自己責任とのバランスを考えていかなければならない。
 - ・各省庁にまたがる事項については、どのように記述するのか検討が必要。予算を反映した記述はある程度仕方がないが、一般の方に理解しやすいものとしなければならない。個別具体例が挙げられているのはよいことである。
- (政策課) 全体認識と具体的な施策の部分の表現の統一性は、予算との関連もあるが、今後工夫していく。第1章については、原子力委員会として積極的に情報発信を行うべきものとする。項目立てについては、長期計画に基づき各年度毎の研究開発利用計画が設定されるため、長期計画の検討の中で議論していかなければならない。

等の委員の意見及び質疑応答があり、本件については引き続き審議をすることとなった。

(2) 核燃料サイクル開発機構中長期事業計画について

標記の件について、核燃料サイクル開発機構より資料2-1、資料2-2、資料2-3及び資料2-4に基づき説明があった。これに対し、

- ・安全確保については、述べるだけでなく実行していくことが大切である。資料2-2のP3の「近隣アジア諸国との協力関係の拡充」及びP4の「もんじゅの所要の改善措置」について説明が欲しい。
- ・資料2-4の角ゴシックは親しみにくい印象を与えて好ましくない。また文字が多く、わかりやすくするためには再度検討が必要である。
- ・各所からの提言を反映するのはよいが、サイクル機構は専門家集団であり裁量権をもつことから、提言を全部受け入れるのではなく、それに対する自らの判断を示すべきである。その点について整理して示して欲しい。
- ・国際協力において、平和利用に限った原子力利用を示していくにあたり、核不拡散をどう扱うのか。IAEAの査察を受け入れる受け身の姿勢だけでなく、積極的に核不拡散抵抗性の高い原子力システムがどのようなものか示して欲しい。
- ・教員国際技術センターの役割を、国際という言葉の意味やもんじゅとの関連を含めて、説明して欲しい。

等の委員の意見及び質疑応答があり、本件については引き続き審議をすることとなった。

(3) 原子力政策円卓会議モデレーターからの提言を受けて

標記の件について、原子力調査室より資料3に基づき説明があった。これに対し、

- ・言葉遣いをです・ます調にすることは可能か。

(原子力調査室) 平成8年度は高速増殖炉懇談会の設置などの決定事項を含んでいたため原子力委員会決定としたが、今回は見解とするか決定とするか議論していただきたい。言葉遣いについては、国民へのメッセージとしてふさわしいものとなるよう検討する。

- ・いかにも行政文書という表現はやめて、平易で一般的な表現にするべきである。国民の意見をうかがうという姿勢を示していくことが大切である。内容はよいと考える。

(原子力調査室) 国民へのメッセージとして、国民に受け入れられる表現としたい。

- ・P2の2. の最後の2行の意味を示して欲しい。また「長期計画の見直し」というより「新計画の策定」という表現の方が適切である。政治の場で幅広く議論とあるが、「幅広い」の意味が不明確であり、抽象的表現を多用するのは好ましくない。

- ・提言はあくまで中間的なものであり、題名を「中間提言を受けて」とするなど表現等も工夫するべきである。前提が長く内容も多くを盛り込みすぎている。抽象的な修飾句が多いので、あくまで中間提言に原子力委員会が答えるという形で簡潔にまとめ、最終的な提言に期待すると結ぶべきである。

等の委員の意見及び質疑応答があり、本件については引き続き審議をすることとなった。

(4) 議事録の確認

事務局作成の資料4-1第18回原子力委員会定例会議議事録(案)、資料4-2第19回原子力委員会定例会議議事録(案)及び資料4-3第20回原子力委員会臨時会議議事録(案)については、委員よりコメントがあれば事務局まで寄せることとなった。